

I 教育目標	
◎よく考える子（重点目標） ○思いやりのある子 ○体をきたえる子	
II 経営方針	
目指す学校像	～ 子供の笑顔が あふれる学校～ ○【子ども】一人一人の個性を発揮できる学校「通ってよかった！」 ○【保護者・地域】地域から信頼され、愛される学校「通わせてよかった！」 ○【教職員】互いの良さを生かし、協力する教職員の学校「勤めてよかった！」
目指す児童像	◎自ら考え、主体的に判断し、行動する児童（今年度重点） ○互いの個性を認め合い、自分も友達も大切にする、思いやりのある児童 ○心身ともに健康でたくましく、明るく活発に、体をきたえる児童
目指す教師像	○子供に寄り添い、子供の成長を心から喜べる教師 ○教育に対して情熱をもち、主体的に学び行動する教師 ○「チーム新田」の一員として、互いに同僚性を高め合える教師
経営理念	<p>予想を超える自然災害や世界における戦争の勃発等、先が見えない世界情勢の中、子供たちに「生きる力」を育む必要性が以前にも増して高まっている。そこで「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる。」「他者への共感や思いやりをもつとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する。」子供たちを育成するために、教職員一人一人が力を高めるとともに、皆で力を合わせて、「心の教育」「学力向上」「体力向上」等に推進していく必要がある。</p> <p>昨年度は、「生きる力」の土台となる、子供たちの主体性を育むことを目指し、令和の新田型スタイルとして様々な取組を行った。今年度はその実践の良いところは残し、課題となったことは改善することで、子供たちを育成していく。そのためには、まず教師が主体的に考え行動し、様々なことにチャレンジしていく。その姿が子供たちにも必ず良い影響を与えていくはずである。</p>

III 経営目標	
重点領域1	学力向上の推進
中期経営目標	学力を高めるため、2つの視点【1 基礎・基本の定着、2 「主体的で対話的で深い学び」「個別最適な学び」「分かる授業」の実現に向けた取組】のもと、様々なことに取り組み、子供の学習意欲、学力調査等における結果、その他2つの視点における子供の実態の向上を図る。
短期経営目標	<p>以下の指導により学力向上を図る。各学年は子供の実態に合わせて重点項目を定めて指導を行う。</p> <p>① 日常の学習（テストやプリント等）、学力テスト等から、子供の実態把握を行い、身に付けるべき力に焦点を当てた指導を行うことで学力向上を図る。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 令和の新田型授業スタイルを取り入れた単元計画を作成し、全教員が「子供が主体的に取り組む」授業を実施することで学力向上を図る。(観察授業や校内研授業)</li> <li>③ 個別最適な学びの実現を目指し、授業の中でUDLの視点を入れたり、タブレットを有効に活用したりすることで学力向上を図る。</li> <li>④ パワーアップタイムにおいて、個に合わせた課題を用意したり、評価を工夫したりすることで学力向上を図る。</li> <li>⑤ EDOスク担当者と連携したり、休み時間等を利用して補習を行ったりすることで学力向上を図る。</li> <li>⑥ 家庭学習に工夫して取り組ませ、児童の意欲を高めたり、苦手な学習を克服させたり、得意なことを増やしたりすることで学力向上を図る。</li> <li>⑦ 朝読書や読書科の授業において探究的な学習を積極的に取り入れることで学力向上を図る。</li> <li>⑧ 交換授業の実施により、教材研究の質を高め、授業改善につなげることで学力向上を図る。</li> <li>⑨ 外国語授業の充実、イングリッシュデイやイングリッシュキャラバンの活用等を通して学力向上を図る。</li> </ul>	
項目	各学年による努力指数(教師側)例	各学年による成果指標(子供、保護者側)例
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川区学力調査の結果より実態把握を行い、課題の焦点化と学期ごとの振り返り及び改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸川区学カテストで課題としている項目において、昨年度の正答率を3%上げる。</li> <li>・アンケート項目「勉強が分かる、授業が分かる」で、肯定的に回答する子供の割合を80%以上にする。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業改善に向け、新田型授業スタイルによる授業観察(1, 2学期各1回)や研究授業を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート項目「授業が楽しく、すすんで参加している」で、肯定的に回答する子供の割合を70%以上にする。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて授業の中で個に合わせた課題を準備する。</li> <li>・タブレットを活用して個に合わせた課題に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート項目「授業の中で、自分に合った課題のプリントやタブレットのアプリができた」で、肯定的に回答する子供の割合を70%以上にする。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回のパワーアップタイムで課題別学習に取り組ませる。</li> <li>・算数の学習カルテを利用して課題別学習に取り組ませる。</li> <li>・よむYOMUワークの過去問に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート項目「パワーアップタイムは自分の役に立っている」で、肯定的に回答する子供の割合を80%以上にする。</li> <li>・東京ベーシックドリルによる正答率を3学期に3パーセント上げる。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EDOスクの担当者と月に1回連携をとる。</li> <li>・子供たちの実態に合わせて、週に1回程度、休み時間等を利用して補習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EDOスクの定期テストにおいて10%向上させる。</li> <li>・アンケート項目「EDOスクは自分の役に立っている」で、肯定的に回答する子供の割合を80%以上にする。</li> </ul>

⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習において、子供に合った助言をする。</li> <li>家庭学習の励みとなる活動を行う（よい取組の紹介等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「家庭学習に意欲的に取り組むことができている」で、肯定的に回答する子供の割合を70%以上にする。</li> </ul>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書で探究的な学習に週1回以上取り組む。</li> <li>読書科ノートを活用して授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「本を使って調べる学習に多く取り組むことができた」で、肯定的に回答する子供の割合を70%以上にする。</li> </ul>
⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>交換授業で同じ授業を複数回行う。</li> <li>2回目の授業の前に、振り返りと改善を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「交換授業による学習は分かりやすい」で、肯定的に回答する子供の割合を70%以上にする。</li> </ul>
⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語授業において、子供たちが意欲的に外国語を使う内容にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「外国語の授業話をするのは楽しい」で、肯定的に回答する子供の割合を70%以上にする。</li> </ul>

重点領域2		心の教育の推進
中期経営目標	様々な取り組みを通して、子供たちが安心して学校に通うことができるようにするとともに、共生社会の実現に向けた心の育成を図る。	
短期経営目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 縦割り班活動を子供主体で行い、下級生に優しくしたり、上級生を尊敬したりする態度を育成する。</li> <li>② 通常・うみかぜ学級の交流及び共同学習を通して、違いを尊重したり、相手を思いやったりする態度を育成する。（生活科の〇〇単元、体育の〇〇単元、行事の〇〇で）</li> <li>③ 道徳授業の推進、規範意識の向上、家庭・地域との連携により、いじめの未然防止・早期発見・早期解決を図る。状況によっては、いじめ対策委員会で適切に対応する。</li> <li>④ SC、SSW、エンカレッジサポーター、家庭との連携により、不登校対応の充実を図る。</li> <li>⑤ 日常生活、体験活動、良さを認める活動等を通して、ほめることを意識的に行い、子供の自己肯定感や自尊感情を高める。</li> <li>⑥ ポートフォリオやその他の活動において、子供に達成感を味わわせ、自己肯定感や自尊感情を高める。</li> <li>⑦ 「全教職員で全児童を見守る」という意識のもと、L-Gateの活用、定期的な情報交換、研修の実施により、児童理解と個への対応の充実を図る。</li> </ul>	
項目	各学年による努力指数（教師側）例	各学年による成果指標（子供、保護者側）例
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班活動において、子供が主体的に活動できるような支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「縦割り班活動で他の学年の子に優しくできた」で、肯定的に回答する子供の割合を90%以上にする。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>通常、うみかぜ学級の共同学習を〇回実施する。</li> <li>交流の後に、互いを認め合えるような振り返りや活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「共同学習で友達のよいところを見付けることができた」で、肯定的に回答する子供の割合を80%以上にする。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳授業でいじめについて年3回実施する。</li> <li>日常においていじめについて見逃さない声掛けを常に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目の「学校はいじめが起っても助けてもらえる」で、肯定的に回答する子供の割合を90%以上にする。</li> </ul>

④	<ul style="list-style-type: none"> <li>SC、SSW、エンカレッジサポーター、家庭等と連携して不登校対策を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校の子供がいる場合、どこかの機関に関わって対応する。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>1週間に1回は子供の良さを認める声掛けを全児童に行う。</li> <li>子供同士が良さに気付ける〇〇活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「友達や先生、家の人からたくさんほめてもらった」で、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回ポートフォリオ活動を行う。</li> <li>子供が自分の成長に気付ける〇〇活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「ポートフォリオや〇〇活動で自分の成長が分かった」肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>
⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日のL-Gateを活用して、気になった子供には必ず声を掛ける。</li> <li>学年会を週に1回行い、子供の情報交換を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート項目「学校が楽しい」で、肯定的に回答する子供の割合を90%以上にする。</li> </ul>

重点領域3		体力の向上及び安全・健康教育の推進
中期経営目標	体力を高めたり、健康を保持・増進したりする取組や授業の充実を通して、健康でたくましい子供を育成する。	
短期経営目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>なわ跳びチャレンジウィーク、新田プレイタイム、持久走記録会の取組を通して、体を動かすことが好きな子供を増やす。</li> <li>体力テスト等の結果を分析することで、子供たちに必要な運動を取り入れた活動を行い、体力の向上を図る。</li> <li>個に応じた達成目標のある授業や運動量が確保された授業の実施により、運動が好きな子供を増やすとともに体力の向上を図る。</li> <li>「安全・安心」「健康保持・増進」教育の改善・充実を図り、自らの健康の保持増進に努める子供を育成する。</li> </ol>	
項目	各学年による努力指数（教師側）例	各学年による成果指標（子供、保護者側）例
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>なわ跳びチャレンジウィークや持久走記録会で意欲向上を目指し、達人表彰など子供を認める活動をする。</li> <li>新田プレイタイムでは毎週一緒に遊ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケート項目「休み時間に外で遊ぶのが好き」で肯定的に回答する子供の割合を80%以上にする。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの結果をもとに、新田小での課題となる運動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題となる運動について、昨年度の体力テストの数値を全体で3ポイント上げる。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>カードを活用して個に応じた達成目標のある授業を実施する。</li> <li>ルールを工夫して運動量が確保された授業を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケート項目「体育の授業で、できるようになったことがある。」で肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練・安全指導・交通安全、歯磨き指導・早寝・早起き・朝ごはん・食に関する取組・アトリエ等の活動を行う時に、必ず意図や効果を伝えやる気につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケート項目の安全の大切さや自分の健康についてで、肯定的に回答する子供の割合を80%以上にする。</li> </ul>

重点領域4		特別支援教育と特色のある教育の推進
中期経営目標	特別支援教育や新田小学校の特色を生かした教育活動の推進を図る。	
短期経営目標	① 特色のある教育委員会を定期的実施することで、特色のある教育活動を推進する。 (SDGs、共同学習、グリーンプラン、読書科、45周年、人権の花等) ② 特別支援委員会、いじめ対策委員会、不登校対応委員会を必要に応じて開催する。 ③ 支援を要する子供に対して、学校全体で組織的に対応する。	
項目	各学年による努力指数(教師側)例	各学年による成果指標(子供、保護者側)例
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色のある教育〇〇について、児童が主体的に活動できるよう工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活アンケート項目「〇〇活動は新田小学校にとって必要である」で肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回定期的に支援、いじめ対策、不登校対応委員会を実施し、学校体制を整える。</li> <li>報連相を心掛け、早期発見、対応につなげる。</li> <li>月に1回、SCやSSW、エンカレッジサポーターと連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「学校は特別支援やいじめ、不登校に対して、SCやSSWと連携して教育活動にとりくんでいる」で、肯定的に回答する保護者の割合を70%以上にする。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を必要とする子供や学級に、学校体制として人を配置したり、対策を施したりする。</li> <li>長期、短期的な視点をもって保護者と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童アンケート「学校は安心できる場所である」で、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul>

重点領域5		「チーム新田」の組織の活性化
中期経営目標	新田小学校の一人一人が力を高めるとともに、地域と連携したり、教員同士の同僚性を高めたりすることで、チーム新田を強力なものにする。	
短期経営目標	① 児童、保護者、地域の声を受け止め、教育活動に生かす。 ② 日々の教育活動はもとより、校内研究、OJT、その他の研修(月1)を通して、能力開発を行うとともに、教職員の同僚性を高め、助け合える学校を築く。 ③ 職務の効率化や取捨選択を行うことで、働き方改革の推進を図る。	
項目	各学年による努力指数(教師側)例	各学年による成果指標(子供、保護者側、その他)例
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童、保護者アンケートや学校関係者評価を実施し、学校経営に反映する。</li> <li>日頃から保護者や地域の方と情報交換を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「学校は保護者・地域の意見や要望を受け止め、教育活動をすすめている」で、肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で日頃から話をしやすい雰囲気づくりを行う。</li> <li>月1回のOJTと研修を実施し、能力開発につなげる。</li> <li>短時間による会議時間や研修時間を設定し、共通理解のもと指導にあたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい職場だと感じる教職員が80%以上にする。</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>公務分掌や年間行事変更、交換授業の実施等により、教職員の負担感の減少を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度よりも働き方改革が進んだと感じる教職員が80%以上にする。</li> </ul>